

■東京スプリント (JpnIII) アラカルト (過去全 29 回の分析)

※第 1 回 (平成 3 年) から第 19 回 (平成 21 年) までは「東京シティ盃」の名称で実施

※平成 21 年は同年に第 19 回 (東京シティ盃)、第 20 回 (東京スプリント) を実施。よって本稿の分析対象は過去 28 年間の計 29 回とする。

※第 1 回 (平成 3 年) から第 11 回 (平成 13 年) まで、第 14 回 (平成 16 年) から第 16 回 (平成 18 年) までは大井ダ 1,400m で実施

※第 12 回 (平成 14 年)、第 13 回 (平成 15 年) は大井ダ 1,390m で実施

※第 1 回 (平成 3 年) から第 19 回 (平成 21 年) までは 1~3 月に実施

※記録は平成 31 年 3 月 20 日時点

■ 1 番人気馬の安定感が際立っている

単勝 1 番人気馬は 15 勝、2 着 6 回、3 着 2 回で、3 着内率が 79.3%、単勝 2 番人気馬は 3 勝、2 着 4 回、3 着 3 回で、3 着内率が 34.5%、単勝 3 番人気馬は 2 勝、2 着 7 回、3 着 5 回で、3 着内率が 48.3%となっている。昨年の第 29 回 (平成 30 年) こそ単勝 1 番人気のブルドッグボスが 5 着に敗れたものの、基本的には単勝 1 番人気馬の成績が良いレースだ。

■ 7 割近くの回で 3 番人気以内の馬が勝利

過去 29 回のうち 20 回は、単勝 3 番人気以内の馬が勝利を収めている。また、単勝 3 番人気以内の馬によるワンツースリーフィニッシュ決着は 1 回ある。

■ 高齢馬の優勝例も少なくない

馬齢別の勝利数を見ると、4 歳が 4 勝、5 歳が 8 勝、6 歳が 8 勝、7 歳が 7 勝、8 歳が 1 勝、9 歳が 1 勝となっている。昨年の第 29 回 (平成 30 年) で 8 歳のグレイスフルリーブが優勝を果たしたように、高齢馬にも注目しておくべきレースと言えるだろう。

■ 複数回の優勝経験があるのはフジノウェーブだけ

2回以上の優勝経験があるのは、第17回（平成19年）と第19回（平成21年）を制したフジノウェーブのみであり、“連覇”を達成した馬はまだいない。

■ 牝馬、外国産馬とも2勝をマーク

牝馬の優勝例は第24回（平成25年）のラブミーチャン、第27回（平成28年）のコーリンベリーと、2回ある。また、外国産馬の優勝例も第21回（平成22年）のスーニ、第26回（平成27年）のダノンレジェンドと、2回ある。

■ 騎手別の歴代最多勝記録は「3」

騎手別の勝利数を見ると、3勝の石崎隆之騎手、内田博幸騎手、早田秀治騎手、御神本訓史騎手がトップタイとなっている。

■ 調教師別の歴代最多勝記録は「5」

調教師別の勝利数を見ると、5勝の高橋三郎調教師が単独トップとなっている。なお、他に2回以上の優勝経験があるのは、2勝の高岩隆調教師だけだ。

■ 優勝例のない馬番は15番のみ

枠番別勝利数を見ると、1枠（6勝）が単独トップ、7枠（5勝）が単独2位、2枠と3枠（各4勝）が3位タイとなっている。また、馬番別勝利数を見ると、2番（5勝）が単独トップ。3番（4勝）が単独2位、6番（3勝）が単独3位だ。なお、未勝利の馬番は15番だけである。

<伊吹雅也>